

子どもサポーター

実践共有

2009

ひろば

報告書



2010年4月

特定非営利活動法人
多文化共生リソースセンター東海

はじめに

土井佳彦（NPO 法人多文化共生リソースセンター東海代表理事）

○本イベント開催にあたって

このたびの「子どもサポーター実践共有ひろば 2009」は、昨年度、当団体が実施した“子どもサポーター”（学校関係者、NPO／ボランティア、保護者等）へのインタビューから、**愛知県三河地域でのサポーター間のつながり及び情報交換や実践的なノウハウの共有**を望む声が多く聞かれたことから、そのきっかけづくりを目的に開催したものです。

日ごろ、さまざまな立場で外国につながる子どもたちの健全育成にかかわっている方々の多くは、自身の実践に対し「これでいいのだろうか?」「ほかの人はどうやっているのだろうか?」と感じていました。そして、それを気軽に相談できる仲間を一人でも増やしたいと思っていました。また、長年支援をされてきた方々は、日本語学習や教科学習だけでなくより多面的に子どもたちをケアしていくことと、そのためには自分たちだけでなく各関係者と手をつないで協働的に支援にあたることの必要性を強く感じていました。

そこで、今回は個別的な支援から協働的な支援へと子どもの支援環境を充実させていくことの必要性和実現に向けたヒントを、また支援の幅を広げると同時に実際に支援を受けて育った子どもたちの生の声を、そして多くの支援者とつながるきっかけの場を提供させていただきました。

この機会を通じて、参加者の方々に今後の実践に役立つヒントを得ていただき、また新たなつながりをもっていただければ幸いです。

○団体紹介 【blog】 <http://blog.canpan.info/mrc-t/>

わたしたち多文化共生リソースセンター東海は、東海地域の多文化共生社会の実現に貢献する中間支援組織として、2008年2月に設立準備会を立ち上げ、同年10月に任意団体として発足、そして2009年10月に特定非営利活動法人（通称NPO法人）となりました。当法人は、（1）東海地域の多文化共生に関するリソース（人材、情報、資金等）の発掘・創出・つなぎと（2）多文化共生のロールモデルをつくり世界に発信することを目指して、以下のような事業に取り組んでいます。



◆多文化共生理解促進事業

…一般市民を対象としたセミナーや講座、研修会等の企画・運営・講師派遣等

◆外国人住民の社会参画促進事業

…外国人住民を対象とした各種研修会、ネットワーク構築支援、情報提供等

◆多文化共生社会づくりに関する情報及び人材のネットワーク構築事業

…web上の参加型ポータルサイトによる情報発信（開発中）

◆「外国につながる子ども」の健全育成に関する事業

…学校関係者、保護者、ボランティア等への情報提供や研修会の企画・運営等

◆その他、目的の達成にかかる事業

目次

表紙

はじめに … 1

目次 … 2

基調講演「子どもの支援環境づくり」：井村美穂さん … 3

分科会（1）放課後学習支援：都築友香さん、神野いずみさん … 4

分科会（2）日本語学習支援：伊東浄江さん、川上貴美恵さん … 5

分科会（3）特別支援：築樋博子さん、彦坂久伸さん … 6

分科会（4）子どもの声：金城ナヤラ・ナツミさん、横溝クリスティーナ小百合さん … 7

交流会／教材展示 … 8

アンケート集計結果 … 9

愛知県「プレスクール実践マニュアル」紹介 … 13

おわりに … 14

基調講演 「子どもの支援環境づくり」

講師：井村美穂さん（NPO 法人子どもの国理事長）

〇はじめに

わたしは趣味で園芸をやっているのですが、花を育てるのと子どもたちを育てるのはよく似ていると思います。無理やり根や茎を引っ張ったところで花は咲きません。肥料や水、温度などその花に合った環境を整えれば自然と花は咲いてくれます。子どもたちにも、一人ひとりに応じた指導ができれば必ず育ってくれます。

〇主な活動と他機関との連携

現在の主な活動は、放課後学習支援事業「ゆめの木教室」と青少年自立支援事業「そら」、交流会（父母会）の3つに取り組んでいます。

「ゆめの木教室」では、保護者に継続的な日本語での教育を確認した上で子どもを預かっています。複雑な家庭環境の子も少なくないので、学習支援以外にもさまざまなケアが必要とされます。そのため、学校や家庭はもちろん、行政や国際交流協会、児童相談所、自治区、他のNPO、地元企業などとも定期的に、また必要に応じて随時連絡を取りながら活動しています。

〇支援環境の充実

子どもの支援環境をよりよいものにしていくには、さまざまな組織・団体等との連携が欠かせません。連携なしには、本当に子どもを救うことは難しいと感じています。子どもの異変に気付いたとき、家庭環境における夫婦関係・親子関係、学校での友人関係などが関係していることがあって、それはわたしたちだけでは解決できません。他の支援者や専門家との協力が必要です。時間や手間がかかっても、子どもにとってできる限り望ましい環境をつくっていきたいと思います。



アンケートより

- ・きちんとした目標で着実に活動を続けられている姿勢に勇気をいただきました。「継続は力なり」ということば通りの実践でした。できることからやってみます。
- ・連携について、粘り強い取組みが本当に大切だと改めて思いました。
- ・自分もがんばってやろうという意欲をもたせてもらいました。
- ・保護者の方を責めず、寄り添って信頼関係を築いていく姿勢を見習いたいと思いました。
- ・大変な状況の中で、細かい配慮の行き届いた事業を行っていること、諸機関との連携を広げてチームで対応していること、日本語学習だけに留まらない支援が参考になりました。
- ・学校だけで子どもは救えない、連携が不可欠だということを強く感じた。

分科会(1)放課後学習支援

講師：都築友香さん・神野いずみさん（CSN 豊橋）

○都築さん・神野さんのお話

わたしたちが支援対象としているのは、主に就労目的で来日した保護者に連れられて来た子どもたちです。自らの意思で来日したわけではないので、日本の学校に入ってもなかなか学習意欲がわかず、また学校生活で困ったことや勉強でわからないことがあって親に相談しても明確な答えが返ってこないという状況におかれています。そこで、学校と子ども、保護者と子どもの間に入って、子どもたちが日本の学校に入って、学校生活や勉強をうまくやっていけるようにサポートすることです。



活動場所は、外国人住民の多い団地の集会所です。わたしたちは大学生ボランティアによる団体なので教科学習のサポートが中心になりますが、年齢的にも比較的身近な存在（お兄さん、お姉さん）としていろいろと相談にのったり、勉強だけではなく人としても立派に育ててほしいという思いから、工作教室や「愛大祭」（愛知大学の大学祭）など課外授業を行ったりもしています。“先生”というよりも、子どもたちにとっての“よき理解者”になれるようにと思って接していますが、やはり叱るべきときはきちんと叱るようにしています。

また以前、団地の敷地内にゴミ箱がないことから、ゴミのポイ捨てが目立つという状態がありました。その解決にと、自治会の方と相談して、教室で子どもたちといっしょにゴミ箱を作って敷地内に設置しました。この活動を通じて、子どもたちと地域の方との交流が深まり、大人も含めて美化活動への意識が高まりました。



子どもたちは学校と家の往復が中心で、より広い世界に触れるチャンスがありません。わたしたち地元の大学生がパイプ役になることで、子どもと大人、子どもと地域社会がつながり、豊かな生活環境につながればいいなと思っています。

アンケートより

- ・保護者との連携、町内会に働きかけるということの大切さがよくわかった。
- ・ある程度知っている内容だったので、ほとんど発言は控えさせていただきましたが、他市で子どもたちをコツコツと教えていらっしゃる方たちがいらっしゃることを知ることができてよかったです。

分科会(2)日本語学習支援

講師：伊東浄江さん（NPO 法人トルシーダ代表）

川上貴美恵さん（西尾市多文化子育て支援事業外国人児童コーディネーター）

○伊東さんのお話

不就学児に関わりはじめたとき、彼らに生きる目的や社会とのつながりが弱いことに気がきました。そこで、まずは彼らの居場所をつくり、日本語学習等を通じてわたしたちや地域との関係を育んでいこうと取組みをはじめました。教室に来る子は目的や置かれている状況もさまざま、日本語学習や教科学習、進学のための試験等をレベルに応じて習得できるようスタッフで工夫しながらやっています。

保護者に対しても、将来の展望を聞いたり、必要な情報を随時提供したりして人間関係を築いていくようにしています。支援と言うのは、身近なところにあるのがいいと思います。近所の人がいちろいろな面で子どもたちを見守ってくれるといいですね。



○川上さんのお話

西尾市の外国人園児比率は約3%です。市のプレスクールでは、「イメージする力を伸ばす日本語支援」に取り組んでいます。それは、＜非行や若年妊娠等の問題→不就学→学力不足・意欲低下→認知力不足→語彙不足→発達を促す経験の不足＞と考えているからです。具体的には、絵本の読み聞かせや“一人話し”、話を聞いたあと絵の並べ替えなどをさせています。こうした取組みの中で、子どもたちの日本語力を伸ばすことが、彼らの人生や社会にどうつながっているのかということをお忘れなくしています。今

後は、教育現場でのプレスクールの認知度を上げること、プレスクール実践者の養成、「わからないから教えて」と言える子の育成、母語保持のための教育機会の保障などに取り組んでいきたいと思っています。



アンケートより

- ・プレスクールの取組みがよくわかりました。レベル判定の結果を園長先生にお知らせしていることもいいことだと思います。
- ・他の市の様子を知ることはいいことだと思う。すぐには取り組めないが、目標、どんな子どもにしたいのか、光をもらいました。
- ・それぞれの地区での取組みを知ることができました。
- ・具体的な相談ができ、的確に必要な考え方をいただけてうれしく思いました。

分科会(3)特別支援

講師：築樋博子さん（豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員）

彦坂久伸さん（豊橋市教育委員会麦笛ひろば西教育相談員）

○築樋さんのお話

外国人児童が特別支援学級に入るまでの簡単な流れについて説明します。外国人児童は乳幼児健診を受ける機会に恵まれなかったりして、小学校入学直前の就学時健康診断の時に障がい気付くということがあります。その後、児童相談所で相談を受けたりしますが、通訳派遣が難しいという課題があります。特別支援学校に入学するのか、地域の学校の特別支援学級に在籍することになるのかといった相談も、支援体制が整わないため後手になることがあります。学年の途中で障がいを持つ外国人の子どもが編入する場合は、日本語指導と特別支援学級のどちらが対応するかなど学校も混乱するのが現状です。



○彦坂さんのお話

何が一番問題かということ、「発達障害かどうか」の見極めです。生後の環境なのか先天的な問題なのか、見極めが大変難しい。近年は子どもが夜遅くまで起きているなど大人と同じ生活をしていて、そのことが原因とも言われています。外国人の子どもは言葉がわからないだけなのか障害があるのか、見立てがとても難しいです。



私は、日本語指導も受けながら適応的な指導もしていく「国際学級」と「適応教室」の間のような教室が、外国人の子どもの支援に必要かと思っています。また保護者への働きかけも課題です。親は、子どもに障害があるということと外国人の子どもであるということで、二重のハンデを背負うと思っています。現場で連携して、情報提供をしながらやっていくことが重要だと思います。

アンケートより

- ・特別支援の見取りの難しさは日々痛感していますが、今日は豊橋の取組みがわかりとても参考になりました。岡崎まで足を運んだ甲斐がありました。
- ・発達障害なのかそうでないのか、きちんとした見極めをするためにも小まめに記録を取ることが必要だと思った。
- ・学校における特別支援の様子が少し具体的にイメージできた。
- ・特別支援の見極めが難しいという状況の中で、記録をつけることや保護者の方へ理解していただくための資料作りなど、とても重要なことを教えていただきありがとうございました。

分科会(4)子どもの声

講師：金城ナツミ・ナヤラさん（美濃加茂中学高等学校 3年）

横溝クリスティーナ小百合さん（愛知淑徳大学 4年）

○金城さんのお話

日本には5歳の時に来ました。小学校から高校までの間に、いろいろな先生と出会い、親身になって助けてくださった先生もいれば、私のことを理解することが難しいんだろうなあと感じる先生と出会うこともありました。でも、家族や友達の支えがあって、私は家庭教師の先生や公文教室、「ブラジル友の会」(*1)の放課後学習支援教室などに通い、月曜日から日曜日まで休みなく英語や他の教科の勉強に励んできました。それは、勉強を続けたいという気持ちと誰にも負けたくないという気持ちがあったからでした。「諦めたほうがいいよ」とか「外国人だから難しいよ」ではなくて、「頑張ればきっとできるよ」という先生の一言で、みんな伸びると思います。もし私がいつか支援をする側になったら、私は外国人の子どもたち、先生、そして親に諦めないことの大切さを訴えていきたいです。

*1 岐阜県美濃加茂市にある在日ブラジル人グループ



○横溝さんのお話

私は家族4人で約12年前に来日しました。当時は9歳だったので、小学校4年生に編入学をしました。小学校では、同級生2人が登下校だけでなく授業中や給食の時も一緒にいてくれたことがとても大きな支えでした。また、弟の担任の先生がポルトガル語を話せたので、遠足は何を持っていけばいいのかなど、分からないことを相談できたことも心強かったです。

中学校に入ってからは、特別な支援はなく苦手科目は苦手なままでした。高校の受験勉強もただ暗記をするだけで、内容は分かりませんでした。中学校の3年間は、思春期とも重なりとても孤独でした。高校でもサポートはありませんでしたが、商業科だったのでいろいろな資格を取るなど勉強を頑張り、学年トップを取ることもありました。その結果、奨学金をもらうことができ、大学に進学につながりました。

私は現在、地域の日本語教室でボランティアをしています。最初は教えることに不安もありましたが、参加者が熱心で一生懸命なので今ではやりがいを感じています。これからも外国人児童に勇気を与えたり、外国人のためにサポートしたりしていきたいと思います。

アンケートより

- ・普段聞けない話が聞けてよかった。支援の必要性や一人ひとりの感じ方に差があることなどを、生の声として聞くことができてよかった。
- ・情報交換をするために、もっと高校生・大学生のネットワークができればいいと思いました。
- ・がんばって大学進学できた二人。どのような支援がよかったか、よくなかったかを知ることができた。今の支援方法を見直す必要があるとも感じた。

交流会／教材展示

協力：愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム

○交流会

分科会終了後は、もう一度大部屋に集まったの交流会を開きました。それぞれが参加した分科会での話や日ごろの悩み相談、そして新しい仲間との出会いなどなど、みなさん思い思いに有意義な時間を過ごされていました。

あるテーマに沿って議論をするのももちろん大事なことです。こうして自由に話題を変えながらいろいろな人と言葉を交わす中で新しいアイデアや活動へのヒントが得られたり、気軽におしゃべりする中で人間関係が深まったりしますよね。



○教材展示

実践者の方々からは、「〇〇に△△を教えるのに、どんな教材を使ったらいいの?」「本屋さんでは買えない教材ってどうやって手に入れたらいいの?」という声をよく耳にします。

そこで今回、愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームにご協力いただき、外国人の子どもの学習支援等に役立つ教材・教具を一斉展示していただきました。実際に手に取ったり、スタッフの方の説明を受けたりして、今後の活動に役立つツールが見つかったようです。



もちろん、今回展示していただいたのはリソースルームにある教材・教具のうちのほんの一部。ほかにも見たい! 使い方など詳しい説明を受けたい! という方は、ぜひ一度、愛知教育大学へ足を運んでみてください。

【愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム】

URL <http://www.resource-room.aichi-edu.ac.jp/room.html>

アンケートより

- ・他の方と情報交換ができて、つながりもできてよかった。
- ・いろいろな方と交流できました。
- ・知り合いができてよかったです。他の方の活動を知ることができて参考になりました。
- ・直接、外国人の子どもや教員と情報交換ができてよかった。
- ・いろんな人の経験を聞いて、とても参考になりました。
- ・いろんな人と話をして、自分の経験を話すことができて、参考になったと思います。
- ・いろんな人がいろいろな考え方で、しかしみんな一生懸命取り組んでいるんだなあと思いました。愛知県の方とのつながりができました。

アンケート集計結果

※回収数 34 件

(1) 今日のイベントは、何で／どこでお知りになりましたか？

チラシを見て	－3名	(多文化共生フォーラムあいち 2009、他)
メールで	－8名	(子どもメーリングリスト、他)
知人・友人からの紹介	－17名	
職場からの紹介	－2名	
当団体スタッフからの紹介	－7名	
その他	－1名	

(2) あなたのご所属を教えてください。

小学校教職員	－8名	高等学校教職員	－1名
大学教職員	－1名	行政職員	－5名
国際交流協会職員	－2名	NPOボランティア団体スタッフ	－15名
その他	－4名	(学生、他)	

(3) 参加されたプログラムはいかがでしたか？

※ ◎とても参考になった、○まあまあ参考になった、△あまり参考にならなかった
×まったく参考にならなかった、□どちらともいえない、?未記入

①基調講演 ◎28名、○4名、□1名、?1名

- ・きちんとした目標で着実に活動を続けられている姿勢に勇気をいただきました。できることからやってみます。
- ・外国人集住地区の中でそれぞれ活動している団体や協力機関との連携をもつことの大切さ、そこに至るまでの大変さを知ることができ、大変参考になりました。集住地区以外の場合は、保見のような連携を取るの難しく、基準は同じでもまた何か違う方法をとって行くのかなと思いました。
- ・「子どもの国」に委託している側でありながら、たくさんの知らない話やご苦労話、連携の重要性を伺うことができ、よかったです。
- ・宿題をやらぬことで朝の会から担任に叱られている外国人児童。学校内で残して宿題をみることはなかなかできないので、地域の方と共に「ゆめの木教室」のような教室が開けたらなと思いました。
- ・「継続は力なり」ということば通りの実践でした。
- ・井村さんの行動力に感服！
- ・私は知識がなくて何でも参考になりますが、すでに活動中の方にとっては連携の具体例や実情

がもっとあったほうがよかったのではないかと思います。

- ・連携について、粘り強い取組みが本当に大切だと改めて思いました。理念や井村さんの思いがわかってとてもよかったです。
- ・自分もがんばってやろうという意欲をもたせてもらいました。
- ・連携の話も参考になりましたが、保護者の方を責めず、寄り添って信頼関係を築いていく姿勢を見習いたいと思いました。
- ・大変な状況の中で、細かい配慮の行き届いた事業を行っていること、諸機関との連携を広げてチームで対応していること、日本語学習だけに留まらない支援が参考になりました。
- ・学校だけで子どもは救えない、連携が不可欠だということを強く感じた。
- ・外国人の比率の多さにびっくり。一度訪問してみたくなった。

②分科会（１）放課後学習支援：◎1名、○1名

- ・保護者との連携、町内会に働きかけるということの大切さがよくわかった。
- ・ある程度知っている内容だったので、ほとんど発言は控えさせていただきましたが、他市で子どもたちをコツコツと教えていらっしゃる方たちがいらっしゃることを知ることができてよかったです。

分科会（２）日本語学習支援：◎9名、○1名、△1名、？2名

- ・プレスクールの取組みがよくわかりました。レベル判定の結果を園長先生にお知らせしていることもいいことだと思います。
- ・他の市の様子を知ることはいいことだと思う。すぐには取り組めないが、目標、どんな子どもにしたいのか、光をもらいました。
- ・それぞれの地区での取組みを知ることができました。
- ・具体的な相談ができ、的確に必要な考え方をいただけてうれしく思いました。
- ・興味深いお話を聞くことができました。もっと時間がほしいくらいでした。
- ・子ども・親・日本人との文化摩擦と、問題点は他のセミナーとかわらない。

分科会（３）特別支援：◎6名、？2名

- ・特別支援の見取りの難しさは日々痛感していますが、今日は豊橋の取組みがわかりとても参考になりました。資料がいただきたかったです。
- ・豊橋の市教委や学校の流れがとてもよくわかりました。岡崎まで足を運んだ甲斐がありました。
- ・発達障害なのかそうでないのか、きちんとした見極めをするためにも小まめに記録を取ることが必要だと思った。
- ・学校における特別支援の様子が少し具体的にイメージできた。
- ・特別支援の見極めが難しいという状況の中で、記録をつけることや保護者の方へ理解していただくための資料作りなど、とても重要なことを教えていただきありがとうございました。
- ・時間が足りないほどのたっぷりの資料を用意していただき参考になりました。

分科会（４）子どもの声：◎8名、○1名

- ・ 普段聞けない話が聞けてよかった。
- ・ 高校生・大学生のネットワークを作りたいですね！
- ・ 支援の必要性や一人ひとりの感じ方に差があることなどを、生の声として聞くことができてよかった。
- ・ 先輩の話を聞いて、とてもいい話でした。
- ・ たくさんの経験を聞いて、とても参考になったと思います。
- ・ 先輩の声を聞いて、参考になった。
- ・ 情報交換をするために、もっと大学生とネットワークができればいいと思いました。
- ・ がんばって大学進学できた二人。どのような支援がよかったか、よくなかったかを知ることができた。今の支援方法を見直す必要があるとも感じた。

③交流会 ◎18名、○5名、□1名、?10名（不参加含む）

- ・ 他の分科会の内容を知りたかったです。
- ・ 日ごろのお話を話したり聞いたりできてよかった。
- ・ いろんな人がいろいろな考え方で、しかしみんな一生懸命取り組んでいるんだなあと思いました。
- ・ 他の方と情報交換ができて、つながりもできてよかった。
- ・ いろいろな方と交流できました。
- ・ 知り合いができてよかったです。他の方の活動を知ることができて参考になりました。
- ・ 直接、外国人の子どもや教員と情報交換ができてよかった。
- ・ ちょっと内輪の甲斐みたいになってしまいました。
- ・ 楽しかったです。
- ・ いろんな人と会話をしてとてもよかったです。
- ・ いろんな人の経験を聞いて、とても参考になりました。
- ・ たくさんの経験を聞いて、とても参考になったと思います。
- ・ いろんな人と話をして、自分の経験を話すことができて、参考になったと思います。
- ・ 愛知県の方とのつながりができた。

(4) 今後、どのようなテーマのイベントに参加してみたいと思われませんか？

- ・ 他市の方々との交流は、違った視点などがあるためとてもありがたいです。
- ・ (NPO 法人子どもの国の)「そら」事業の話を聞きたかったですので、次回…
- ・ 多文化共生の具体的実践を共有する会など。
- ・ 日本語の教え方、教材の紹介など。
- ・ 外国人の子どもの教育についてなら何でも。具体的にこうやって指導しています、という内容のものがいいです。
- ・ 三河での催しはとてもうれしいです。中学生の抱える進学・学力等に関するテーマをお願いします。
- ・ 今はNPOにもボランティア団体にも入っていないので、どう関われるのか、どういう活動を

しているか、初歩的なことを知る機会がほしいです。

- ・日本語指導員、加配教員、クラス担任などが交流できるイベント。
- ・(教員ですので) 学習について。とくに教科学習について。
- ・日本語指導の支援をしているが、基本があっているか不安になる。日本語教師の方の講演を聞いてみたい。
- ・外国人の子どもを指導する中で、実際に起こった、あるいは起こりそうな問題とその対処法。
- ・大学入試について。
- ・教材作りなどの研修会。

(5) その他、意見・感想等があればお聞かせください。

- ・どこも苦労しながらがんばっていることがわかり、励まされた。
- ・今日はよい機会をくださってありがとうございました。
- ・中3の3月末で勉強の機会が全くなくなる子が多いです。過年齢で中学への編入ができる各都市の状況を知りたいです。
- ・最後の交流会でいろいろな話ができ有意義でした。
- ・せっかく岡崎でのセミナーだったので、岡崎で活動をしているグループのお話をきけたらもっとよかったです。
- ・こうした取組みがなされることは本当に素晴らしいことだと思います。ぜひ、次回を取組みを期待しております。
- ・岡崎まで来た甲斐があり、たくさんの情報をいただきました。ありがとうございました。
- ・分科会の質がすばらしかった。人数的にも適当で有意義だった。
- ・大変充実した内容で、参考になることばかりでした。ネットワーク作りの重要性も再認識できました。ありがとうございました。
- ・盛りだくさんの企画でした。分科会が4つはもったいないくらいでした。
- ・三河地域の取組み紹介リストのようなものがあるとよかったです。
- ・子どものネットワーク構築のための会を開催してほしい。
- ・大変参考となり、ありがとうございました。今後、地域に帰り、できる範囲でできることから取り組みたいと思いました。

—ご回答くださった皆様、ご協力ありがとうございました—

イベント参加者内訳

※参加者計 42名

【地域別】

(愛知県内) 豊橋市 9名、豊田市 4名、安城市 4名、名古屋市 3名、岡崎市 1名、碧南市 1名、蒲郡市 1名、日進市 1名、小牧市 1名、その他 6名、(県外) 美濃加茂市 7名、浜松市 1名、東京都 1名、不明 2名

【所属別】

小学校教職員 8名、中学・高等学校職員 1名、大学教職員 3名、NPO/ボランティアスタッフ 15名、行政職員 5名、国際交流協会職員 4名、企業 1名、不明 5名

愛知県「プレスクール実践マニュアル」紹介

協力：愛知県 地域振興部 国際課多文化共生推進室

本イベントでは、プレスクールの普及に協力するため、アンケートにご回答いただきました参加者の皆様に、愛知県が作成した全国で初めてとなる「プレスクール実施マニュアル」を配布しました。

「プレスクール実践マニュアル」について

※愛知県 HP <http://www.pref.aichi.jp/0000028953.html> より

愛知県では、外国人の子どもが入学した小学校で戸惑うことなく、早期に学校生活に適応できるようになることを目指し、平成 18 年度からプレスクール（就学前の外国人の子どもへの初期の日本語指導・学校生活指導）のモデル事業を実施しております。

平成 21 年度は、これまでのプレスクールのモデル事業の成果を活かし、プレスクールの普及を図るため、県・モデル事業実施市町村・モデル事業での講師経験者等に加え、外国人の子どもの教育環境、子どもの言語の発達、多文化共生教育などの関係分野の専門家の協力もいただきながら、プレスクールの実施のためのマニュアルづくりを進めてきました。

「プレスクール実践マニュアル」の構成

このマニュアルを活用いただく方々へ

序章 プレスクールの必要性和愛知県のプレスクール事業

第 1 章 プレスクール事業を企画・運営する際のポイント(Q&A)

第 2 章 就学前の外国人の子どもへの学校生活指導・日本語指導の進め方

第 3 章 プレスクールに関する理解を深めるために

資料集

プレスクール実施マニュアル検討会議について



おわりに

河村 慎子（NPO 法人多文化共生リソースセンター東海事務局長）

平成 21 年 12 月、さまざまな立場で外国人の子どもを支援している方々（＝サポーター）の経験・実践を共有し、今後の支援の充実・展開を図ること、意見交換・情報共有を通じて、三河地域における“人の交流”を促進することを目的に本イベントを開催しました。当日は、前日の雪で足元が悪いにもかかわらず、学校関係者、NPO・ボランティア団体スタッフを中心に 40 名余りの方がご参加くださいました。

本イベントは、①全体会、②分科会、③交流会というプログラムで行いました。①全体会では、地域連携による子どものサポート体制づくりと具体的な支援のあり方を、②分科会では子どもの支援を「日本語学習支援」「放課後学習支援」「特別支援」に分け、それぞれに必要な知識や姿勢を実践者から伺い、またそうした支援を受けて育った子どもたち（高校生・大学生）の生の声を聞く機会としました。③交流会では、参加者がテーブル間を自由に移動しながら、参加できなかった分科会の内容を共有したり、日頃の悩みについて意見交換したりしていらっしやいました。

直接支援の現場をもたない私たち中間支援団体は、ともすると自分たちの役割を見失いがちですが、今回のように現場で活躍されている方々と直接お話をさせていただくことで、当団体の役割を再認識させていただくことができました。

今後は一層充実した機会の提供に努めていきたいと思っております。

謝 辞

本イベントを開催するに当たり、ご支援・ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

（順不同、敬称略）

NPO 法人子どもの国／GSN 豊橋／NPO 法人トルシーダ／西尾市教育委員会／豊田市教育委員会／豊橋市教育委員会／愛知淑徳大学／NPO 法人ブラジル友の会／愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム／愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室／岡崎市シビックセンター／岡崎市南部市民会館／愛知県公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金（通称：モリコロ基金）

Special Thanks

NPO 法人子どもの国・NPO 法人トルシーダの子どもたち